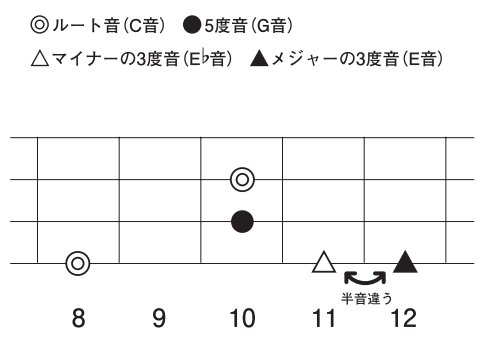


注意点1  **理論**

**コードの雰囲気を決める
3度音を覚えよう!**

読者諸君も子供の頃、音楽の授業で、明るい雰囲気がメジャー・コード、暗い雰囲気がマイナー・コードと習っただろう。その2つの響きの違いを決定付けているものは何か? それは3度の音となる。例えば、ド(C音)を1度(ルート音)とすると、そこから3番目の音=ミ(E音)が3度だ。この3度が半音変わることによって、メジャーとマイナーが決まる(図1)。したがって、ベース・ラインを考える際には、この3度の使い方に注意が必要になるのだ(慣れるまでは、メジャーとマイナーのどちらにも属するルートと5度のみで、フレーズを作ってみてもよい)。まずは、ルートと3度の位置関係を把握しよう。

図1 メジャーとマイナーのコード・ポジションの比較



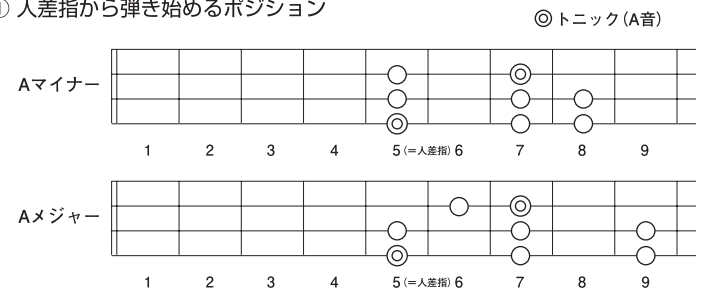
注意点2  **左手**

**マンネリ化を打ち壊す
スケールの活用法**

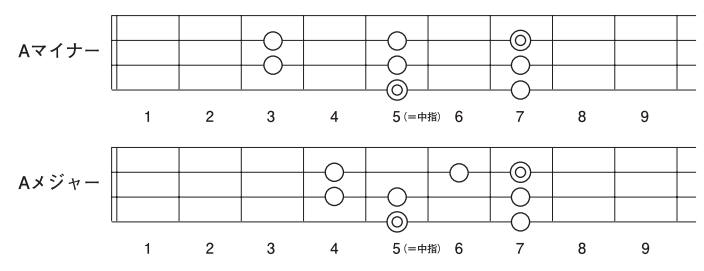
ワンランク上のベーシストを目指すなら、ルート音が指板上のどこにあるのかを、すぐに見つけられる力を身につけたい。そうすることで、アドリブやオブリガートに自由に演奏できるようになるだろう。さらに多彩なフレーズを生み出せるようになるために、弾き始める指によって変わる3種類のスケール・ポジションを覚えておく(図2)。ここでは、ロックで馴染みが深いAナチュラル・マイナー・スケールで解説しよう(参考までに、右図にはメジャー・スケールも掲載した)。読者の中には、人差指から弾き始めるポジションを覚えている人が多いと思う。しかし、スケール・ポジションはいくつもあるので、弾き始める指も人差指だけではない。ここで、中指と小指から弾き始めるポジションもしっかり覚えよう。ちなみに、Aナチュラル・マイナー・スケールは、Cメジャー・スケールと同じ構成音になっている。これは**平行調【註】**という考え方だが、AmとC、BmとD、C#mとEなど、すべてのキーにおいて、ナチュラル・マイナー・スケールとメジャー・スケールは対を成しているのだ。例えば、キーがCの曲でアドリブを弾く時に、Cメジャー・スケールが苦手な人はAナチュラル・マイナー・スケールを弾いてもよい。フレーズのマンネリ化を防ぐために、多くのスケール・ポジションを覚えるようにしよう。

図2 弾き始める指によって変化するスケール・ポジション

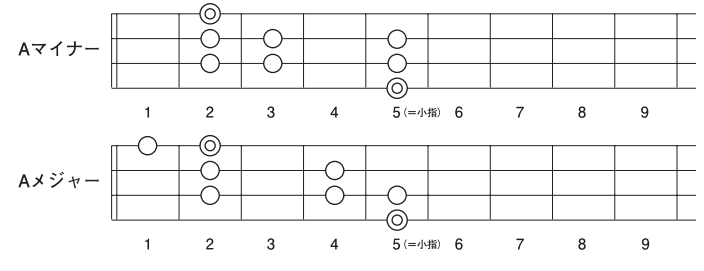
① 人差指から弾き始めるポジション



② 中指から弾き始めるポジション



③ 小指から弾き始めるポジション



【平行調】 同一の調号(五線譜上で、音部記号に続いて♯や♭などの変化記号によって表示)によって示される長調と短調。平行調を理解することで、スケールが覚えやすくなり、フレーズの幅も広がる。